

熊の彫刻作品を市に寄贈

市鷹巣出身彫刻家・伊藤さん

本市出身の彫刻家・伊藤信直氏(79)は東京都八王子市から市に寄贈された熊の彫刻が9日、伊藤氏の弟で同板橋区在住の強美さん(66)によって本市に運ばれ、贈呈されました。伊藤さんは昭和3年本市住吉町生まれ。昭和31年、武蔵野美術学校(現大学)を卒業後、二紀展、日本芸術家展など数々の展覧会で彫刻作品が入賞されています。

強美さんは、「来年80歳を迎えることを機に、寄贈を思い立ったもので、市民の皆さんに喜んでいただければ幸い」と信直さんの思いを岸部市長に伝えていました。

彫刻作品は市文化会館に展示されています。



▶寄贈された彫刻作品の前に、左から信直氏の弟・強美さん、東京旧鷹巣会事務局長・小市哲子さん、岸部市長

「森っち」がデビュー

秋田県が着ぐるみを製作

このほど秋田県が製作した第59回全国植樹祭のシンボル「森っち」の着ぐるみが公開され、本市でも子どもたちの前や市役所で「デビュー」のあいさつをしました。

着ぐるみはイラストのイメージに合わせて、頭部と胴体が丸みのある親しみのあるデザインで、北海道苫小牧市で開かれた第58回全国植樹祭に合わせて製作され、先行デビューしていました。秋田県ではこの日が初披露となりました。

幼保連携施設「認定子ども園しゃろーむ(岡村宣園長)」を訪れ、園児たちに大歓迎されました。

この後、市役所を訪れ、佐藤修助副市長に名刺を手わたして「よろしく」とあいさつし、大勢の職員に歓迎されました。



▲認定子ども園しゃろーむで園児たちから大歓迎を受ける森っち



▲日ロサミットで活発な意見交換のあと、みんなで記念写真!

ロシアの子もたちと異文化交流

ハバロフスクから12名の交流団

ロシア・ハバロフスク地方から子どもたちの交流団が7月19日、本市を訪れ、市長を表敬訪問したほか、地元の中学生らと交流を行いました。

ハバロフスクとの交流は平成元年、旧合川町で児童の絵画と野球道具をロシアに寄付したことがきっかけとなって始まりました。

一行は市長を表敬訪問の後、交流を続けている合川中学校を訪れ、ランチルームで給食会に参加したあと、生徒会代表との「日ロサミット」では日ロの文化などについて意見を交わしました。サミットのあとは盆踊りを体験したほか、ロシアの舞踊団に所属している交流団の子どもたちが民族舞踊を披露し、盛んな拍手を浴びていました。



▲小さな稚魚をやさしく水面に放流する児童たち

元気に大きくなってね

大阿仁小児童がイワナの放流

7月10日、大阿仁小学校の1年から3年までの児童24人が、カラミナイ川にイワナの稚魚3000匹を放流しました。

稚魚の入ったバケツを手に川岸に並んだ児童らは、稚魚をいたわりながらそっと川に吸い込ませるように放流した後、水中を覗いて稚魚を確認すると「元気だね」と声をかけていました。

放流事業は、阿仁川漁協(松橋三郎組合長)と同漁協阿仁支部が行ったもので、この日は昨年の秋に孵化し体長5センチ程に育ったイワナの稚魚2万3千匹が5ヶ所の川に放流されました。

幻想的な「ホタルの光」舞う

内陸線ホタル列車運行

内陸線の車窓から、ホタルが飛び交う景色を眺めてもらうと臨時列車「ホタル号」が6月末から7月始めにかけて運行されました。秋田内陸縦貫鉄道では、2年前から「ホタルの里」づくり事業に取り組み、今年の4月には白坂地区の内陸線沿いの小川へホタルの幼虫を放流しています。

ホタル号では、社員が紙芝居を使いホタルの説明をするなど車内はホタルムード一色に。白坂の観賞ポイントで停車し消灯されると、乗客は一斉に窓から身を乗り出し、歓声をあげながらホタルが放つ幻想的な光に見入っていました。放流から約80日、初夏の夜空に舞う美しい光となり人々を魅了しました。



▲車内では、ホタルの生態などを学習しながら鑑賞ポイントに向かう

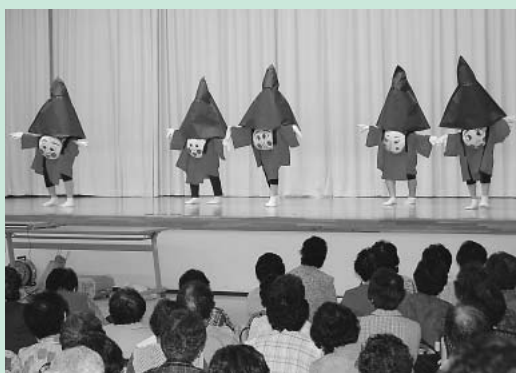
演芸と健康体操で楽しく交流

市老人クラブ「お楽しみ交流大会」

市老人クラブ連合会女性委員会(鈴木昭子委員長)のお楽しみ交流大会が7月13日、合川農村環境改善センターで開催され、約350人の会員らに参加し、民謡や踊りを楽しみながら交流を深めました。

開会式で鈴木委員長が「歌と踊りでたくさん笑って、楽しい一日にしてほしい」とあいさつし、その後行われたステージ発表では、各支部有志による踊りや民謡が披露され、会場からは盛んに拍手が送られていました。

この交流大会は、手軽にできる健康体操プログラムに組み入れるなど、だれでも気軽に参加できる催しとして、同クラブ女性委員会が初開催したものです。



▲ステージでは、各支部有志による踊りや民謡の熱演に、会場からのたくさんの拍手で交流を深めました。